

第 1 回 子ども未来応援会議

日 時 平成23年11月25日(金) 午後1時30分より

会 場 藤枝市役所西館3階 303会議室

出席者 委員

大坪委員長、片山委員、金原委員、栗田委員、小山委員、佐野委員、清水委員、
榛葉委員、大社委員、禰津委員、堀見委員、松永委員、村本委員

教育委員会

教育長、教育部長、教育推進室

○協議

委員長

今日は、協議の入り口になりますので、テーマに沿わなくても結構ですので、自由に発言をお願いします。

まず、A委員より教育全般の問題について、話題提供をお願いできますか。

A委員

日本全体の教育動向としまして、大きな出来事として平成18年に教育基本法が改正となり、国は教育振興基本計画を策定し国会で公表しなければならなくなりました。国は平成20年に策定し、地方公共団体は努力義務ですが、県も今年策定されました。今後は市町の段階です。藤枝市も近い将来の策定が考えられます。

私の視点ですが、生涯学習の理念が教育基本法の3条に規定されていて、今までの学校教育を中心としたものではない教育について、国の教育振興基本計画にも反映されています。従前の5カ年計画の中でも「地域ぐるみで」、「社会全体で」という言葉が本会議の説明と同じように出てきています。こういう時代になって、学校がいくら頑張っても子どもが良くなれないし、犯罪率も高くなっている。何か空回りしてしまっている状況を違う切り口で対応したいと社会全体が思っている。親が親らしくできないことも、今までは家庭の個別の事情として扱ってきたが、そうはしていただけないと動き出したという現状です。

藤枝が教育日本一とする場合にゴールがどこにあるのかははっきりしていないと、教育で大事なことと言い出すとあれもこれもとなって結局何をしているのかわからなくなってしまう。藤枝の目指す子ども像として、

「元気ならそれでいい」、「頭が良ければいい」でも「よく言われるようなことを全般的に大事にする」でもいいので、誰がなんと言おうと藤枝はこれだというものを決める。さすが藤枝と言われるような方向性を打ち出すことが必要だと思います。

B委員

日本一という目標はいいと思うが、特に教育では曖昧。私は事務局からの説明を藤枝版の教育改革をしたいと聞き取ったが、本当の教育改革を進めるのは現場の教師。行政が考えたビジョンや方向が現場の教師一人ひとりに浸透しているのか。

私はスーパーティーチャーという形で、市内の中学校の一人の先生の授業を毎週見に行っていて、彼女は努力し授業も良くなってきているが、教育改革という雰囲気はない。いつもそうだが、スローガンでは教育は変わらない。しかし、文科省も県教委も市教委もスローガンを作るのが好きで日本一もスローガンになると思う。ただ、北村市長はお金も出している点で今までの市長とは違い、熱意を感じるし、実際に事が動き始めている。しかし、スローガンでは進まないの、学校のカリキュラムを変える必要がある。学校の教えるやり方、方法が変わるところまで踏み込めれば教育改革だと思う。事務局の説明に、英語の小中接続教育があったが、9年間で英語が使えるようになるカリキュラムを藤枝市が作ればそれは日本一だと思う。

各学校で、このビジョンに沿った教育計画に書き換えていけば、より具体化されて進んでいくと思う。

C委員

この日本一という言葉が出た時には、校長同士でも議論になりました。推進室から説明いただいた学校の教育力向上も、始まったばかりで教師一人一人に浸透という段階ではありません。ただ、今年度8ヶ月の中で、9年間で接続という視点の中で、地区内では小・中学校3校が学校を開き合って、授業を開き合って、言語活動をテーマに皆で考え始めている。

9年間の接続の重要性については意識してきている。予算も多くつけてもらい、ALTが小中学校に入って充実しており、成果も上がり始めている。後は教師の意識を変えていく必要があると思う。

委員長

学校の現場では「日本一」をどう捉えていますか。

C委員

最初は学力を意識してしまう言葉と懸念していたが、推進室より説明を

受ける中で、子どもたちが夢や希望を持ってたくましく進んでいける力をつけるための様々な手立てを打っていると誇れる、そうした学校教育が日本一に繋がると今は考えている。

委員長 正直、私も日本一とは何だろうと悩んでしまった。県教委も富国有徳を掲げていて、「富国有徳の人」って何だろうと思ったが、県教委の計画には、その定義が事細かく書いてありました。

D委員 委員委嘱の話をいただいた時に、学力日本一では違うんじゃないかという私の問いに学力日本一ではないと言っていたのだが、資料で見ている限りでは、学力向上かなと感じた。日本は今までそういうやり方でやってダメだったのだから、今までの流れの延長線上ではなく、PISA型とか語学力ではなく、創造力を大事にするべきと思う。

遊びとかそういう基本的なところで創造力は豊かに育つと思うが、今の子どもには3つの間、時間と空間と仲間がないと言われる。例えば、公園でもボールを触るな、ボールを蹴るな、バットを振るな、木に登るなど規制だらけ。行政としては怪我を心配してのことだが、ギャングエイジと呼ばれる小学校3・4年生くらいの第一反抗期の大事な時期の子どもが、年齢の上下なく存分に遊んで、その中で学んでいくことを考えてあげたい。

最初にまず学校教育を語らない、学力向上というところからやらない、その方が子ども未来応援会議の名に相応しいと思う。

E委員 学力で比べるのが簡単だし、外国人と英語を学んで日常会話が話せるようになることはすごいことだが、そういう結果がすぐわかるのではなく、長く将来的に見て子どものためになっているかが重要だと思う。

私は「あたたかい人間関係づくり」で、小中学校で子どもに断り方などの会話の仕方を教えていて、それが実際の場面で子どもが使えるかは難しいことだが、子どもによっては何らかの気づきもあると思う。藤枝はそうした努力は広がってきている。

不登校の子どもが増えているが、何でこの子が学校に行けないんだろうという不登校の子に出会う。不登校ゼロを目標にすることもいいと思う。

委員長 私も、勉強のことではなく「笑顔が日本一多い学校」のような目標がいいと思う。

E委員 読書なども時間を設けてやっているが、やる子はやるが、やらない子は

やらない。子どもを盛り上げるのは難しいこと。

F委員

私もかつて目標をたくさん作る立場にあったが、大事なことは、「あれもこれも」ではなく「あれとこれ」と絞ること。資料にある「めざす子ども像」も6つから3つ位に絞れば、目指すところがはっきりしてくる。学校には学校教育目標、重点目標、学年目標、生徒指導目標、道徳教育目標と目標が溢れている。藤枝ではそれらを一つにするくらいの考えが必要だろう。

広幡小学校では「見つけて、考えて、実行する」という目標を、給食でも掃除でも授業でも、すべての場面の目標にしている。言葉を厳しく吟味して綺麗に整えて示せばわかりやすくなる。

あいさつ運動で「大きな」声であいさつと言うが、「大きい」は物理的な話で、「笑顔で」や「元気な声で」とは全く質が違う言葉、藤枝の教育を変えるなら言葉を吟味して、絞って、整った言葉、みんながわかる言葉にすることを提言したい。

委員長

大変、難しいテーマだが、一つに絞って言えということですね。

G委員

日本一と聞いた時に、藤枝市は今、何番なのだろうと漠然と思いました。私は高校生と中学生の子を持つ親です。2人の子どもはゆとり教育を経験した世代ですが、ゆとり教育が導入され、またその方針が変わったりということで先生たちも余裕がなくなって大変だと思います。

昨日、子どもの中学校で国語の授業参観があったのですが、わかる子どもが、わからない子どもを集めて教えるなど、子ども同士で教え合っていた。自分の子どもは国語が好きなのでわからない子に教えていたが、その姿がとてもしっかりよかった。ぜひ、点数で語るのではなく、お互いの「学び合いが日本一」になってほしい。

市子連の役員だった時に、藤枝にはあげんたいや大祭りがあり大人と子どもが共存して一つのことを作り上げていく、各地域で楽しんで子どもを育ててくれる姿にとっても感謝した。その一方で、子どもが育っていく地域の中で、長年住んでいても初めて見る人もいて二極化している。土地に定着していない人もいるが、地域の行事によって関係ができ、子どもがいつも笑って帰って来られる地域にしたい。

H委員

私の地区には藤枝大祭りやお天王さんのお祭りがある。お祭りの中で地域の子どもの指導をできる場面もあり、自分の子どもの子育ては終わってしまったが、地域の中で行事を通じてやれることはある。

商工会議所では地域振興の方法の一つに藤枝市の人口増を考えているが、以前には西益津中が学力が高いことが話題になって、藤枝東高への進学も多かった時期に引っ越す人もいたほどだった。子を持つ親としては教育力の高さは魅力であり、教育力なら周りの市町よりも藤枝の方が優れている「文化都市」との自負があった。

PTAの役員をやっている時には、藤枝小の先生の授業が素晴らしいとあって、研究授業を県下からたくさん見に来ていた。固過ぎるけど学力も無視できない。

当たり前のことを当たり前でできる子どもの育成も目標の一つ、以前は問題行動を起こす子どもの数なども言われたが、数値ということであればそういうものも一つのものさしになるのではないかな。

I委員

資料の中のめざす子ども像はどこでも必要なもので、藤枝らしさはない。すでに実施されている事業も、他のところでも実施されているようなものではないのか聞きたいと思っていた。

めざす子ども像に対し、子どもが目指せるような人物像もない。今年度、青年会議所では、子どもたちに偉人たちを紹介する活動をしている。子どもたちの中にこんな人になりたいという人物像があるとわかりやすく、ひいては何かの形で日本一を生み出すと思う。

また、他の国の人たちからは自分たちの国はこうだという話を良く聞く。地域で誇れるものがあるとそれがアイデンティティーとなって、外に出た時に藤枝を誇ることができる。そんな子どもも藤枝のめざす子ども像の一つとして考えられるのではないかな。

J委員

日本一は非常に難しい課題、資料を見る限りは日本一イコール学力と感じました。

以前、PTAで活動した時に子どもの遊び場を作ろうとイベントをさせてもらいました。子どもと親の交流を考えたが、子どもたちはとても楽しんでくれた。私も子どもと普段は接する機会が少なかったが、イベントの後、子どもの「お父さん」と呼ぶ言葉が変わりました。私を見る目が変わってとてもいい関係になりました。その後も、食育の関係でお米を藁で炊いて食べるイベントもやらせてもらった。そこでも親子の関係ができたこともあり、親と子が交流する場を創る活動を続けていきたいと思う。

私の地区はあいさつ運動が盛んだが、何でもまず地域として取り組むことがいいと思う。

K委員

私は藤枝の生まれではないので、藤枝でパッと思いついたのは、学校の校庭に子どもたちと先生と親が一同に集まってリフティングをしている光景をイメージしました。サッカーなら簡単に日本一目指せるんじゃないかと単純に思いました。

皆さんの話を聞いていろんな日本一があるので、皆さん共通の日本一の姿を、ゴールを作らないといけないのかなと思います。よく問題解決に使う方法を用いて、思いつきでもいいので皆さんの考える教育日本一のアイデアを出し合っ、その中から一つ藤枝が目指すべき日本一を決める。それがないと先生も困るし、進むべき方向もあいまいになり、子どもにも伝えられないと思う。そして、子ども未来応援会議として決めたものを広く藤枝市民全体に示せたらいい。

また、「当たり前のこと」と言っても、例えば、私が思う「当たり前のこと」と他の人が思うものは違う。先生が生徒に聞かれた時に困ってしまう。藤枝市の教育としての「当たり前のこと」を定義すべきだと思う。

他に大事だと思うことは「人間力」、「コミュニケーション能力」。最近、洒落にならない話として、英語は使えるけど仕事はできない新入社員が増えている。英語の前に日本語のコミュニケーションがままならない若者が増えている。

英語ができることと、コミュニケーション能力が高いということは全く違う。英語は技術としてできた方がいいのは間違いない、ただ、その前に日本人として日本語でのコミュニケーション能力、お互いの違いを尊重して受け止める能力がとても大事だと思う。集まった皆さんはいろいろな考えがあって素晴らしいと思ったのですが、お互いの違いを認める、勉強やスポーツの能力は千差万別だが、それぞれの能力を適材適所で活かしながらチームをまとめていくことが醍醐味なので、そうしたコミュニケーション能力を育成できるように藤枝市の教育を示せばいいと思う。

L委員

特別支援教育の部会が設けられたことはとても嬉しく思っています。

計画の中で小中一貫としているが義務教育の範囲でやりやすいのでどこの市町でも掲げている。でも、本当に必要なのは幼保から小・中・高校、社会への繋がり。これがないと子どもの未来応援にならない。できることだけやったのでは日本一は目指せない。

中・高の連携に一番の問題がある。入試が関係するため、中学校側は不利な情報は出たくないし、高校は受入れ後に特別な支援が必要なことを知るのでは困ると腹の探り合いになっている。難しいことだが、そこにチャレンジすることが大事だと思う。

藤枝市は、幼保から小・中・高まで繋いでいるということが日本一として誇れるようになればいいと思う。「満足度日本一」を目指すのがいい。

委員長

今、日本の教育は大転換期に来ていると思う。しかし、未だにほとんどの親や教育者の発想は20世紀の日本が発展途上国で貧困で製造業を主体としていた時代を前提としている。21世紀の時代はどういう時代かと聞かれると困るが、今までの教育や価値観では対応できない、生きていけない時代だと思う。以前、小中学校で円周率の π を3にすると言ったら世間から大変な批判があった。でも、皆さんの中で社会に出てから円周率を使った方はいらっしゃいますか？いないですよ。大事だから全部覚えろと言うが使っていないものがなぜ大事なのか。それよりも普段使っている日本語の方がよほど大事ですよ。

県立大学の教授で世界的な数学者がいるが、足し算・引き算・かけ算・割り算に関しては私の方がはるかに上手い。その教授は、私に「なぜ、人類がこんなに苦労して作ったパソコンや計算機を使わないんですか」と言った。時代が大きく変わったが、どんな教育をしたらいいかわからないまま、とりあえず古い教育を続けている。私は戦前の教育を受けたが、ビンタされ、できなきゃ非国民だと言われて覚えたのは歴代天皇の名前。私たちは21世紀において、文科省の言うとおりにやっているといいのか。藤枝式はこんな教育をやるんだというものをきちんと作れば日本一になれるかもしれない。

もう一つ、自分も含めて教育者には自分の手柄にしたがる人が多い。県下全部の高校の校長に会ったが、みんな「私の高校からどこどこ大学へ何人」と自慢する。親も同じ。これをどうにか改めていきたい。